

シャンティ国際ボランティア会
年次報告書 2017

シャンティ 2018年5月1日発行 増刊 通巻295号
1985年6月28日第三種郵便物許可 ISSN1343-4748

本之力を、生きる力に。



公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会
Shanti Volunteer Association

©Yoshifumi Kawabata

娘は難民キャンプに来て初めて、 本を読むようになりました。 娘が読み聞かせてくれるお話を 聞くのが、私はとても好きです。

マー・ジーさんは夫と4人の子どもたちとミャンマーからタイ国境の難民キャンプに移り住みました。生まれ育った村はたいへん貧しく、生活するのも困難で学校がありません。マー・ジーさんも夫も、学校に通ったことはありません。でも、マー・ジーさんの子どもたちは今、難民キャンプの学校に通い、読み書きを学んでいます。図書館と本に出会い、学ぶ楽しさを知ったのです。

キャンプにやってきたとき、子どもたちは家に閉じこもりがちでした。恥ずかしさと怖さ、知り合いもない心細さから、ほとんどの時間を家で過ごしていました。でも、図書館の前を通ると子どもたちの笑い声や歌声が聞こえました。中に入ると図書館員が温かく迎えてくれました。

おかげで子どもたちは図書館に通うようになりました。恥ずかしがっていたゲームや歌にも、活発に参加するようになりました。そんな子どもたちの姿を、マー・ジーさんはとても誇らしく感じています。

「私たち夫婦は読み書きができず、地名も道路標識もわかりません。行きたいところにも行けません。でも、子どもたちは

読み書きができます。そのおかげで、自分の意思で自由に生きるチャンスを得ました。もしも難民キャンプの外に出られる日が来たら、子どもたちには将来、他の国を訪れてほしいと思っています」。

マー・ジーさんは、娘が本を読んで聞かせてくれるのが大好きです。読み聞かせる娘の姿を見るととてもうれしくなります。そして、その姿にみずからの人生の幸福を見いだします。本は子どもたちに生きる力を、そして大人には希望と喜びを与えるのです。



マー・ジーさん(左)と娘さん(右)
「ぼくとクッキー ぎよならまたね」(ひさかたチャイルド)

© Yoshifumi Kawabata

■ シャンティ、36年間のあゆみ



これまでの活動実績 (2017年末まで)



実績1 本を読む機会づくり

絵本出版／478タイトル
届けた絵本／293,744冊
図書館利用者／1,283万人



実績2 人をつくる

研修参加者／31,847人



実績3 安心できる場づくり

学校建設／390校
図書館・図書室設置／829館



実績4 緊急救援

緊急救援出動回数／64回
(海外39回、国内25回)

ごあいさつ

会長 若林 恭英

カンボジア難民支援から始まった活動は、2018年で37年目になりました。

近年、長年当会を支えてくださった名誉会長の松永然道師、顧問の松野宗純師、元理事の丹羽耕健師がご逝去されました。設立当時を知る第一世代から次の世代に活動が引き継がれる中、より一層この活動の意義を伝えていかなければならないと、肝に銘じています。

お釈迦様生誕の地・ルンビニがあることで知られるネパールは、2015年に大震災に見舞われました。シャンティは支援の届きにくい郡部へ緊急救援に入り、仮設校舎の建設や学用品の配布、女性向けシェルターや子どものための空間づくりを行いました。活動の中でネパールが多く社会問題を抱えていることに気づかされました。

2017年より首都カトマンズに事務所を設け、地元の支援団体と共に教育支援活動を開始しました。震災

で明らかになったのは、地震大国でありながら防災教育が施されていなかったことです。そこでシャンティは、耐震化されたモデル校を建設すると同時に、防災紙芝居を作成し、教師や子どもたちに活用してもらう予定です。

ネパールに限らず、当会が支援している国々は多民族・多言語国家で最近まで内戦があり、弱い立場の子どもや女性がしわ寄せを受けてきました。内戦に逆戻りすることのないように、教育支援という種まきを継続していくことが平和への道だと信じています。



若林恭英



人々の声



アディサ・セーヤンさん(19歳)
高校生(2018年3月卒業)
奨学生としてバヤオ県の学生寮で暮らしています。寮生たちはみんな家族のように暮らしています。卒業しても絶対に寮のことは忘れません。



2

1 ターク県での奨学金授与式の様子
2 シーカー・アジア財団(SAF)職員

現状

タイにおける出稼ぎ労働者数は500万人ともいわれ、クロントイ・スラムでもこの10年で近隣諸国の人々が居住するケースが増えています。厳しい教育環境を強いられる移民の子どもたちのために、移民の子どもたちが学ぶ学校を回り、読書推進活動に取り組んでいます。

クロントイ・スラム発のライフスタイルブランド「FEEMUE(フィームー)」を4月より販売開始しました。デザイナー・フジタテペ氏がシーカー・アジア財団(SAF)に40日間滞在し、縫製指導やウェブサイトの作成など販売準備を進めました。「クロントイ・スラムを歩こう」と題した半日ツアーを開催し、好評を得ましたが、参加者はみな外国人でした。今後、タイ人に広げるためのPRや人員体制が課題です。

事業

●教育の機会改善事業(バンコク・スラム地区、ターク県、バヤオ県)

中高生440人に奨学金を授与しました(バンコク51、ターク213、バヤオ176)。2月には、対象3地域で家庭訪問を実施、4月に新規奨学生の選定を行いました。

バンコク、ターク、バヤオにて奨学金授与式を開催しました。バンコクではニコン・タイランド、日本人会、日本国大使館、タークでは(株)ニコンをお迎えしました。

●移動図書館活動を通じた教育の質改善事業

新しい移動図書館車両が納車され、タイの子どもの日にあたる1月15日から新車両による活動を開始しました。バンコク・スラム地区内のごみ処理場付近にミャンマーから移住した人々が住み込み形成されたコミュニティがあります。リサイクル業を手伝う子どもたちは母語に触れる機会がほとんどないため、こうした地区で新たに移動図書館活動を開始しました。また、ろう学校で学ぶ子どもたち向けに活動も行いました。

移動図書館活動をバンコク・スラム地区で65回、ナコーンパトム県のろう学校で2回、マハーチャイ地区で45回、ターク県メーソットで20回行い、14,463人の子どもたちが参加しました。

実績



図書館活動参加者：33,658人



奨学金支給者：486人



人々の声



ケン・ヒアブさん(56歳)
識字教室の生徒
私は読み書きができずとても苦労しました。7カ月間、識字教室に参加し、今では手紙を読めるようになりました。時々、野菜や鶏を市場で販売して、家族の暮らしを支えられるようになりました。



2

1 コミュニティラーニングセンターでの識字教室で、暗い中、明かりを頼りに真剣に授業を受ける生徒たち
2 カンボジア事務所職員

現状

国内最大野党の指導者が逮捕され、党は解散、政治家118人が5年間政治活動を禁止され、民主主義の衰退が不安視されています。一方経済成長率は毎年7%に達し、教育面では「幼児教育・初等教育へのアクセスや学習環境が改善された」と教育戦略計画中間報告書(教育省)で述べられています。カリキュラム改定をはじめとする教育改革も行われていますが、12歳で小学校を卒業した児童の割合は40%と、教育への支援はまだ必要な状況です。

事業

●小学校建設活動

バタンバン州の小学校5校の新校舎建設は12月にすべて終了しました。

●図書館活動を中心としたコミュニティラーニングセンター(CLC)事業

6館で識字教室を開催し、修了生127人の多くが試験を通過、生活向上研修には125人の農業普及員が参加しました。CLCから離れた場所の住民にも広報活動を行い、利用者が増えました。なお、6館のうち2館が州教育局へ引き渡され、今後は自主運営されます。

課題 カウンターパートの能力が不十分でCLCの自発性や運営機能もいまだ不十分です。成人の利用や教育局職員のモニ

タリングも十分ではありません。

●バタンバン州の公立幼稚園における幼児教育の質の改善事業

幼稚園22園に家具一式、本、装飾用資材を配布、教育環境が向上しました。また、同園の幼児教育啓発研修に職員や学校支援委員計93人が参加、現職教員研修を2回実施し、のべ116人の教員が参加しました。

9月に天竜厚生会と共同で教育省や州・郡教育局職員、教員計7人を日本に招聘し幼児教育研修を行いました。

教育省幼児教育局の研修会に中央幼稚園の教員ら386人が参加、使用された場作りガイドブックには、シャンティの場作りに酷似した内容が反映されていました。

課題 支援対象教室と対象外教室との差への何らかの対処が必要です。カウンターパートに受け入れられた「遊びを通じた学び」の実践には、モデルケースをさらに構築する必要があります。

実績



図書館活動参加者：97,317人



研修会参加者：1,328人



学校建設：5校



アフガニスタン

Afghanistan



人々の声



ソーマさん (10歳)
小学6年生

私はパキスタンで生まれ、今はジャララバードの子ども図書館の近くに住んでいます。音楽や工作、スポーツなどのプログラムがある子ども図書館のことをとても気に入っています。



1 子ども図書館で読み聞かせをする先生
2 ジャララバード事務所職員 3 カブール事務所職員

現状

パキスタン政府の難民強制帰還政策により、カブールやナンガハル州には多くの帰還民が流入しました。しかし多くは教育や医療などの社会サービスが受けられず、家畜小屋やテントなど劣悪な環境での暮らしを強いられています。テロや紛争による死傷者も過去10年で最多を記録し、住民の不安は募るばかりです。教室、教員、教材不足のみならず、学校や教員を狙ったテロ攻撃の増加により、子どもたちの学習環境も一層厳しくなっています。

事業

●学校建設を通じた初等教育改善事業 (フェーズ4)

カブール市の2校を対象に校舎を建設しました。1校では8教室1棟とトイレ5部屋1棟を、もう1校では既存の1棟12教室の校舎に2階部分を増築しました。完成後、教員・児童用の机、椅子などの備品も供与しました。

完成した校舎で、教員を対象とした校舎の維持管理研修を行いました。3月下旬の新学期からは、計2,394人の児童が安全な教室で学べる予定です。

課題 対象地域の治安悪化により、当初予定していた祈祷式(建設工の安全や校舎の完成を祈る式)が実施できませんでした。

●学校図書室事業 (フェーズ2)

校舎建設を行った1校を含め、カブール市の4校とナンガハル州の6校、計10校に図書室を設置し、建設対象校1校を除く各校で、教員研修と図書館員研修を各1回行いました。絵本5タイトルと、防災をテーマにした紙芝居1タイトルを出版しました。

●児童の読書推進事業

ラグマン州にある2つの公共図書館に児童図書コーナーを設置し、図書館員に児童サービスの研修を行いました。

ジャララバード事務所で運営する子ども図書館は、週末と祝日を除く243日開館しました。年間利用者数は昨年比8,000増の38,086人に上り、1日当たり156人が利用しました。12,240冊が貸し出され、学校に行けなかった子どものための特別教室を開催し、42人が修了しました。

実績

絵本・紙芝居出版：12タイトル2,800冊
図書館活動参加者：38,086人

研修会参加者：614人

学校建設：1校
図書館・図書室設置：10館



ミャンマー

Myanmar



人々の声



カウン・ミン・サさん (10歳)
小学4年生

僕は図書館で本を読んだり、お絵描きするのが好きです。将来、エンジニアになって建物の設計をしたいので、科学の本をもっと読みたいです。

「まちのねずみといなかのねずみ」(金の星社)



1 授業中の生徒たち
(2016年度に支援したマハゼイヨン寺院学校)
2 ミャンマー事務所職員

現状

経済発展も見られる一方で、都市部と農村部の格差が著しく広がっています。教育分野ではアクセスと質の両面での課題が残され、小学校では3割の児童が卒業できていません。また軍事政権時代の名残から暗記中心、教員中心型教授法がとられる傾向があります。現在、2016年に策定された「5カ年国家教育戦略計画」に基づき、新カリキュラムの導入や教科書の改訂、児童中心の学習スタイルへの移行を目指す制度改革が行われています。

事業

●寺院学校改善事業

寺院学校4校を建設し、各校に「図書コーナー」を設置し、66タイトル197冊を配架しました。建設にあたり、地域住民のオーナーシップを促すため、学校長、教員、保護者などからなる「学校建設委員会」を立ち上げました。

●ノンフォーマル教育事業

ビー県の4村で「学校に通っていない子どものためのライフスキル教室」を実施、10～17歳の子ども80人が修了しました。タヤワディ県の3村で「学校を中途退学してしまった子どものための夜間小学校」を支援、10～14歳の子ども12人が進級や卒業をしました。ビー県の3村の地域学習センターで、読書サークルやお絵描きなど通常の活動に加えて、仏教教育や地域美化運動が行われました。

●公共図書館改善事業

14の公共図書館に37,402人が来館し、1日の平均利用者数は1館当たり10人と、昨年より13%増加しました。各公共図書館から小学校への移動図書館活動を毎月平均6回行い73,111人が参加しました。情報省職員向けに児童サービスに関するトレーニング能力強化を行いました。

課題 情報省の図書館担当職員の自発性を促すため、リーダーシップ研修を行う必要があります。

●児童図書出版改善事業

「環境」をテーマに絵本コンクールを開催し3作品を選出、出版しました。児童図書出版研修会を開催し、そこで制作された紙芝居1タイトルを出版しました。教育図書『アジアのお話』の翻訳コンテストを行い、優秀作品を出版しました。

課題 パートナー団体であるミャンマー作家協会が多忙により協力を得るのが難しい場合があるため、協力体制の強化を図る必要があります。

実績

絵本・紙芝居出版：3タイトル19,200冊
図書館活動参加者：110,513人

研修会参加者：20人

学校建設：4校



ネパール

Nepal

ヌワコット ● ● ラスワ
カトマンズ

！ 緊急救援

Emergency Relief

人々の声



ドルジェ・タマンくん (12歳)
シャンティ・デビ小学校 5年生
仮設教室は夏は暑くて冬は寒いので、新しい校舎で勉強できることを楽しみにしていました。僕たちの学校を支援してくださって本当にありがとうございます。



1 絵本の読み聞かせを行う教員

2 ネパール事務所職員



1



2

- 1 簡易なテントで暮らしている避難民世帯の様子 (アフガニスタン)
- 2 物資の配布会場で支援物資を求める長蛇の列 (アフガニスタン)



3



4

- 3 宮城県気仙沼市・熊本交流プログラムの様子
- 4 朝倉市災害ボランティアセンターでのヒアリング

現状

震災の復興が遅れる中、再建された学校は全体の14%に当たる1,141校にとどまっています。またネパールの教育制度は新システムへの移行期にあり、移行後は初等と前期中等教育が基礎教育(1～8学年)、中等と後期中等教育が中等教育(9～12学年)となります。しかし、初等・中等での退学率が高い(52%)ことに加え、高校卒業試験の合格率も低い(44%)ため、子どもの21%しか高校を卒業できていない状況です。

事業

- ヌワコット郡、ラスワ郡の被災小学校における防災能力強化事業

【学校建設】

ヌワコット郡で3校の校舎17教室を建設しました。対象校の児童のほとんどが先住民族のタマン族、またはネパールで差別されてきたダリット(不可触民)です。これまで仮教室で学習していた児童329人、教員18人が安全な校舎で学ぶことができるようになりました。建設された校舎は耐震構造施設として、2018年2月に復興庁に認定される見込みです。

【図書館活動を通した子どもたちの心のケア、防災教育の実践】

建設対象校3校、周辺校8校で、就学前クラスから5年生までの各教室に図書コーナーを設置しました(ただし、うち1校は3、4、5年生のみ)。図書コーナーには本棚と約100冊の図書を配架しました。

教員を対象に2日間の図書活動研修を2回行い、合計で14校56人の教員が参加しました。参加者は防災についての基礎知識、図書コーナーの活用及び運営方法、防災紙芝居の適切な演じ方について学びました。

地震発生の仕組みと、学校で地震が起きた際の身の守り方についての紙芝居を2タイトル、各150部を発行し、14の小学校、70の公立・コミュニティ図書館に配布しました。

【対象校における防災計画の策定と、防災に対する理解の向上】

2018年に12校の公立小中学校において行う予定です。学校防災計画策定研修と、学校防災計画周知・避難訓練の研修パッケージ開発を行いました。

実績



研修会参加者：56人



学校建設：3校
図書コーナー設置：64

パキスタンから帰還するアフガニスタン難民への緊急救援

パキスタン政府の帰還政策強化により、過去最大規模のアフガニスタン難民がパキスタンから帰還しています。2016年に約62万人、2017年には約55万人の難民が帰還しました。帰還後に定職に就けない状況が続く中、帰還民の増加により、家賃や土地代、食料価格の高騰が起こり、帰還民は簡易テントや納屋、家畜小屋など、劣悪な環境での生活を強いられています。

この状況に対応するため、緊急救援事業を開始しました。2016年12月～2017年2月にかけて960世帯に越冬支援を、2017年4月～8月には1,800世帯へ食料支援を実施し、合計18,740人の帰還民を支援しました。アフガニスタン政府や国連機関と連携して、帰還後支援を一度も受けたことのない世帯を特定して支援を行いました。2017年11月からは、紛争によって避難を余儀なくされている子どもたちに「子どもに優しい空間(Child Friendly Space)」の提供を開始しました。

シャンティが活動するアフガニスタン東部地域では、タリバン・IS・政府軍間の戦闘が激化し、多くの市民が犠牲となり、国内避難民(IDP)が発生しているため、今後も緊急人道支援が必要とされています。

九州北部豪雨災害支援

2017年7月4日深夜から7月5日未明の記録的豪雨により甚大な被害を受けた福岡県朝倉市に緊急救援担当職員2人を派遣し、状況把握のためのニーズ調査および支援物資の配布を、九州曹洞宗青年会および佐賀県曹洞宗青年会と共に実施しました。また、国内災害ネットワークの一員として、8～9月の3週間にわたり朝倉市災害ボランティアセンターに職員1名を派遣し、支援調整業務をサポートしました。

熊本と気仙沼市の子どもたちの交流

一般社団法人アイ・オー・イー(熊本)と特定非営利活動法人浜わらす(気仙沼市)の協力のもと、熊本地震や東日本大震災で被災した子どもたちの交流プログラムを8月に気仙沼市で実施しました。海と触れ合う自然体験活動を通して、災害が起こる仕組みや復興に向けて自分たちにできることなどを学びあい、お互いの町の良い点を発表するプログラムを行いました。

東日本大震災被災者支援活動

Response to the Great East Japan Earthquake



移動図書館事業が終了、陸前高田コミュニティ図書室は地元引き継ぎ

岩手・宮城・福島での移動図書館活動は、2017年3月に終了しました。本の貸し出しだけでなく、お茶を提供し、住民同士が自由に交流できる居場所づくりをサポートしてきました。

2017年7月、新しい陸前高田市立図書館が開館されるのを機に、陸前高田コミュニティ図書室の図書サービスを終了しました。閉館を惜しむ声も多かったことから、同図書室が置かれていたモビリア仮設団地のサポートを続けてきた地元NPO「陸前たがだ八起プロジェクト」と自治会によって図書室の運営が引き継がれることになりました。



陸前高田コミュニティ図書室

南相馬に暮らす人々が心穏やかに暮らせるように

原発事故により、避難指示が出されていた福島県南相馬市小高区は、2016年7月、帰還困難区域を除き避難指示は解除されたものの、人口は発災時の1万2,842人から8,627人に減り、居住者は2,412人とどまっています(2017年12月31日現在)。

2017年4月、宮城県山元町にあった山元事務所をJR常磐線原ノ町駅のそばに移転し、南相馬事務所と変更しました。南相馬市社会福祉協議会が小高区で開いているサロンや、南相馬市立図書館の移動図書館車による災害公営住宅への訪問のお手伝いをしています。

また、地元の団体「まなびあい南相馬」による聞き書き活

動の取材や編集に協力し、地元を愛する声を集め、本にまとめる活動をお手伝いしてきました。



地元団体の聞き書き活動

地元の復興を支える 好評発売中

気仙沼蔵内産「こいわかめ」

1袋 500円(税別) + 送料

津波の後、一艘だけ残った船のもとに集まり、漁業の再開を決意した漁師の協業グループ「蔵内之芽組」が寒流と暖流がぶつかる豊かな海で育て上げたワカメです。豊富な栄養分を吸収し、肉厚で味わい深く、「うま味の濃い」ワカメに育っています。



ご注文は「蔵内之芽組」のウェブサイトから

蔵内之芽組

Q検索

あんでねっと 復興のアクリルたわし

500円(税別) + 送料

編み物を“あんで”、“ネット”ワークを広げようと、2011年から被災地域のお母さんたちが集い、地元の特産品である海の生き物をモチーフにしたアクリルたわしを販売しています。売上は「あんでねっと」の制作者の手間賃とお母さん方の活動費に充てられます。



ご注文は「クラフトエイド」のウェブサイトから

クラフトエイド

Q検索

広報活動

2冊の新刊を出版

試練と希望

東日本大震災・被災地支援の二〇〇〇日



まちづくり支援に居場所づくり・学習支援、移動図書館と、さまざまな支援活動に携わったスタッフ・協力者は支援を通じて何を感じたのか。支援者一人ひとりの息遣いから人生観の変遷までをつづった、東北に寄り添い続けた6年間の軌跡。

発行：明石書店(2017年11月)
編集：シャンティ国際ボランティア会

わたしは10歳、本を知らずに育ったの。 —アジアの子どもたちに届けられた27万冊の本



アジアには本を知らない子どもたちがいる一方、1冊の本から生きる希望を見つけ出した子どもたちがいます。36年にわたるシャンティの図書館づくりや翻訳絵本を届ける活動と、子どもたちのエピソードを紹介した一冊。

発行：合同出版(2017年12月)
編集：シャンティ国際ボランティア会
著者：鈴木晶子、山本英里、三宅隆史

実績(メディア掲載・イベント・講演)

メディア掲載	イベント(主催・共催・共催含む)	講演
188件	21件 / 609人	77件 / 3,755人

【主な掲載メディア】



新聞(106件)

04.03 / 毎日新聞「ミャンマー文民政権1年 難民処遇遠い解決」
06.21 / 朝日新聞「難民キャンプに元」リーガー」
09.17 / 神戸新聞など「アジアの子どもに絵本を 地道な活動が『生きる力』育む」
(※共同通信社による配信 全国地方紙13媒体で掲載)



雑誌(26件)

02.01 / THE BIG ISSUE vol.304「にぎやか、問題解決—いいね! 図書館」
02.10 / PHPくらしラク〜 2017年3月号
「“金持ち体質”になる! すっごい捨て方 開発途上国などに寄付できる団体やサイトも」



テレビ(4件)

07.29 / NHK Eテレ「ETV特集 二枚目の名刺〜働く私の自分探し〜」
09.18 / TBS「世界で勝手におせっかい in タイ」



ウェブメディア(27件)

04.25 / オルタナS「ネパールに防災教育を浸透へ、NGOが学校建設」
09.26 / サステナブル・ブランド ジャパン「SDGs達成には企業イノベーションが不可欠、国際NGO語る」



その他(25件)

07.02 / NHK WORLD RADIO JAPAN News「世界難民の日 サッカー教室」など

子どもたちを支援できる参加方法！

アジアの子どもたちに「絵本を届ける運動」

絵本は、子どもたちに「たくさんのお話」や「言葉を知る喜び」、「知らない世界」を教えてください。日本の絵本に現地語の翻訳シールを貼って送る「絵本を届ける運動」を1999年から行っています。これまでに29万冊以上の絵本を届けてきました。

●2017年実績：18,357冊 ●2018年目標：18,254冊

国と地域 カンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、アフガニスタン、ミャンマー、タイ

翻訳言語 クメール語、ラオス語、カレン語、ビルマ語、パシュトゥー語



©Yoshifumi Kawabata

お買い物で支援「クラフトエイド」

シャンティは、女性が子どもの教育資金のために手仕事でつくる製品を販売するフェアトレード事業「クラフトエイド」を行っています。タイ最大の人口密集地域クロントイ・スラム発のブランド「フィームー（FEEMUE）」の商品販売を開始しました。無料配布しているカタログ、またはネットショップからご注文ください。



使わなくなった「もので寄付するプロジェクト」

お家に眠っている本、CD、アクセサリーやブランド品、商品券がありましたら「もので寄付するプロジェクト」へお申し込みください。宅配業者が無料で集荷に伺い、専門業者が査定し、査定額に寄付を上乗せした金額がアジアの子どもたちの教育支援に役立てられます。

本・CD	商品券・金券	それ以外のお宝
●書籍 ●コミック・マンガ ●音楽CD ●DVD・Blu-ray ●ゲームソフト・ゲーム機 ●スマホ	●全国の百貨店共通商品券 ●旅行券 ●ビール券・おこめ券 ●図書券・図書カード ●書き損じはがき／未投函のはがき ●未使用の切手／はがき	●金・プラチナ・貴金属・宝石 ●ブランド品（バッグ・洋服・時計） ●古銭・古紙幣 金貨・貨幣セット ●骨董品・工芸品 ●カメラ・レンズ ●携帯・タブレット



継続的に活動を支える「アジアの図書館サポーター」

支援を続けるためには、継続的なご支援が不可欠です。毎月1,000円からご寄付いただける「アジアの図書館サポーター」を募っています。毎月決めた額が銀行口座やクレジットカードから自動的にご寄付いただき、銀行や郵便局へ振り込みに行く必要はありません。

サポーターには定期的に子どもたちの写真つきメッセージカードやニュースレターが届きます。

●2017年：新規申込者数／125人 ●2017年：サポーター数／1,390人



詳細や参加申込の方法はウェブサイトをご覧ください！

シャンティ SVA

検索

ご支援・ご協力・連携実績

ご寄付

夏と冬の募金キャンペーンや募金箱などを通じて、多くの方々がシャンティの活動を支えてくださっています。

- ・個人：5,418人
- ・団体：1,947団体

ボランティア・インターン

- ・絵本を届ける運動

事務所ボランティア／23人

翻訳ボランティア／4人

- ・クラフトエイド

事務所ボランティア／6人

- ・東京事務所インターン

広報課／4人

支援者リレーションズ課／1人



「絵本を届ける運動」事務所ボランティアのみなさん

関係機関との連携

外務省

外務省「日本 NGO 連携無償資金協力」を通じ、アフガニスタンで初等教育改善事業と、ネパールで被災小学校における防災能力強化事業、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプでコミュニティ図書館を通じたノンフォーマル教育支援事業を実施しました。

ジャパン・プラットフォーム（JPF）

JPFの助成を受け、アフガニスタン・ナンガハル州での帰還民支援と、子ども向けの居場所「子どもに優しい空間（Child Friendly Space）」2館を設置しました。

遺贈・相続財産によるご寄付

故人の遺志による遺贈や、ご自身で生前に贈与いただくもの、香典やお花料での寄付など、様々な遺贈の形があります。

「余命数カ月なので、わずかな遺産を贈りたい」とご連絡いただき、遺贈くださった方もいらっしゃいます。

プロボノ

専門的な知識やスキル、経験を生かしてご協力くださっています。

・aurinco（アウリンコ）さん

・桑山紗織さん ・村上泰崇さん

・高橋桃子さん ・井山未歩さん

・林孝子さん ・村井一毅さん

・石坂泰弘さん ・井筒敬彦さん

・神門圭太さん ・Kin Rinnaさん

・Angelika Heriyantoさん

・シュルツ八坂由美さん

・東京 YWCA 国際語学ボランティアズ ILV のみなさん

●写真撮影協力

・川畑嘉文さん

・安井浩美さん

●映像制作協力

・江藤孝治さん（ネツゲン）

※順不同

国際協力機構（JICA）

JICA「草の根技術協力事業」を通じ、カンボジアで公立幼稚園における幼児教育・保育の質の改善事業と、ラオスで少数民族の子どもたちのための就学前・初等教育における指導能力改善事業を実施しました。

【後援】文部科学省

1999年から開始した「絵本を届ける運動」は、文部科学省と（公社）日本図書館協会、（公社）読書推進運動協議会に後援いただいています。

組織概要

法人名 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
設立 1981年12月10日
社団法人登記日 1999年8月19日
公益社団法人移行登記日 2011年1月4日

顧問

足立 房夫 一般社団法人協力隊を育てる会 顧問
公益社団法人東京都障害者スポーツ協会 顧問
阿部 豊淳 宮城県・光寿院 住職
小野田 全宏 特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会 常務理事
川原 英照 熊本県・蓮華院誕生寺 貫主
特定非営利活動法人れんげ国際ボランティア会 会長
白石 孝 荒川区職員労働組合 顧問

専門アドバイザー

岡本 真 アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役
大菅 俊幸 曹洞宗総合研究センター 講師
鎌倉 幸子 かまくらさちこ株式会社 代表取締役
長浜 洋二 株式会社PubliCo 代表取締役CEO
手束 耕治 カンボジア宗教省仏教研究所 顧問

理事・監事

会長 若林 恭英 長野県・安楽寺 住職
副会長 神津 佳予子 有限会社ケイアンドアイ 代表取締役社長
副会長 三部 義道 山形県・松林寺 住職
専務理事 岡本 和幸 千葉県・真光寺 住職
常務理事 市川 斉 シャンティ国際ボランティア会 常勤役員
常務理事 秦 辰也 近畿大学国際学部 教授
常務理事 早坂 文明 宮城県・徳本寺 住職
理事 有馬 嗣朗 山口県・原江寺 住職
理事 下澤 嶽 静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科 教授
理事 関 尚士 シャンティ国際ボランティア会 事務局長
理事 茅野 俊幸 長野県・瑞松寺 住職
理事 長倉シュツア牧子 株式会社FM BIRD 代表取締役社長
理事 中村 紀子 東京都消費者月間実行委員会 事務局長
理事 八木澤 克昌 シャンティ国際ボランティア会 アジア地域ディレクター兼
ミャンマー（ビルマ）難民事業事務所 所長
理事 渡邊 智恵子 株式会社アバンティ 代表取締役
監事 野中 茂 野中公認会計士事務所 公認会計士
監事 増田 和生 元自治労大阪府本部 特執

国内における主な受賞歴

正力松太郎賞（1984年） 東京都豊島区感謝状（1995年） 宮城県社会福祉協議会感謝状（2011年）
ソロプチミスト日本財団賞（1985年） 防災担当大臣賞（2004年） ESD 岡山アワードグローバル賞（2015年）
外務大臣賞（1988年） 兵庫県知事感謝状（2005年）
毎日国際交流賞（1994年） 第七回井植記念「アジア太平洋文化賞」（2008年） ※2017年12月末日現在

参加ネットワーク一覧

国内

SDGs 市民社会ネットワーク／「エクセレントNPO」をめざそう市民会議【運営委員】／ NGO 安全管理イニシアティブ（JaNISS）【世話人】／ NGO 外務省定期協議会【連携推進委員】／ NGO-JICA 協議会【コーディネーター】／ NGOと企業の連携推進ネットワーク／ NGO非戦ネット【呼びかけ人】／ NGO-労働組合国際協働フォーラム／開発教育協会（DEAR）【理事】／紙芝居文化推進協議会／カンボジア市民フォーラム【世話人】／教育協力NGOネットワーク（JNNE）【事務局長】／国際協力NGOセンター（JANIC）【副理事長】／シーズ・市民活動を支える制度をつくる会／ジャパン・プラットフォーム（JPF）／地雷廃絶日本キャンペーン（JCBL）／震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）／東京災害ボランティアネットワーク（東災ボ）【副代表】／東京都災害ボランティアセンター・アクションプラン推進会議／東京ボランティア・市民活動センター【運営委員】／日本アフガニスタンNGOネットワーク／日本NPOセンター／日本図書館協会／日本ファンドレイジング協会／日本UNHCR－NGOs評議会（J－FUN）／庭野平和財団【理事】／防災・減災日本CSOネットワーク（JCC-DRR）／東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）／ビルマ市民フォーラム／仏教NGOネットワーク（BNN）【副理事長、事務局長】／全日本仏教会支援検討委員会【委員】

海外

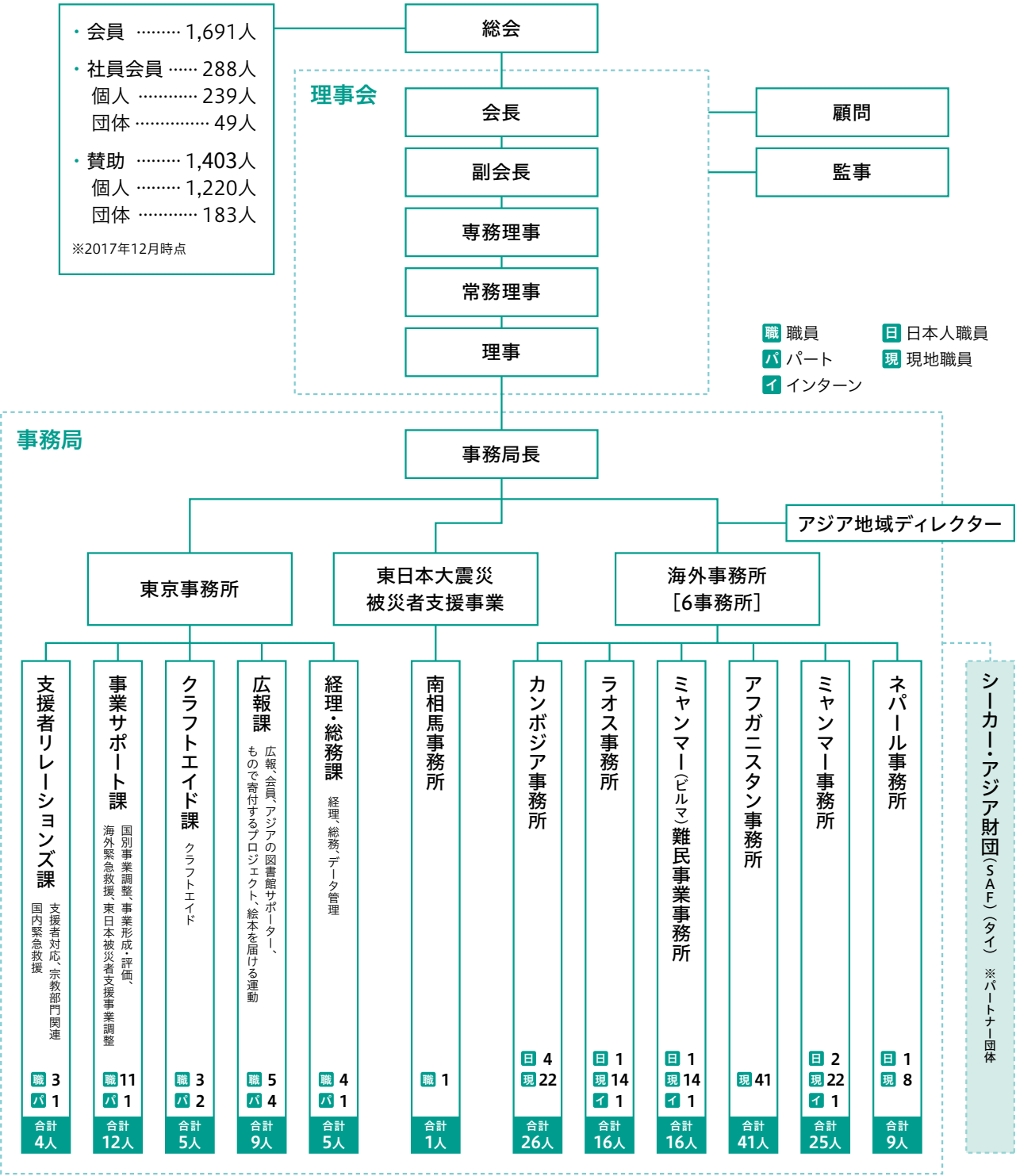
●カンボジア Cooperation Committee for Cambodia（CCC）／ NGO Education Partnership（NEP）／カンボジア市民フォーラム【現地世話人】／ Japanese NGO Worker, Network in Cambodia（JNNC）【共同代表】
●ラオス International NGO Network／ Japanese NGO Meeting（JANM）
●ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ Committee for Co-ordination of Services to Displaced Persons in Thailand（CCSDPT：難民支援事業調整委員会）
●アフガニスタン Agency Coordinating Body For Afghan Relief（ACBAR）／日本アフガニスタンNGOネットワーク（JANN）
●ミャンマー Japan NGOs Network－Myanmar（JNN-Myanmar）
●ネパール Association of International NGOs in Nepal（AIM）
●全体 Asia South Pacific Association for Basic and Adult Education（ASPBAE）【理事】／ The Asia Disaster Reduction & Response Network（ADRRN）

※2017年12月末日現在

組織図

事務局員 （専務理事、常務理事除く、SAF、インターン含まず）	166人
日本人職員	45人
現地職員	121人

※2018年4月1日時点



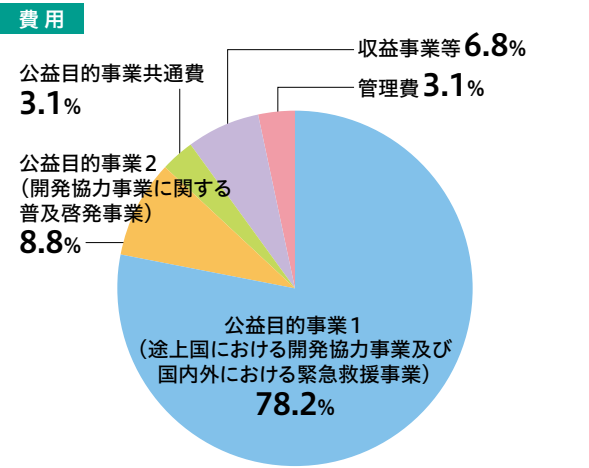
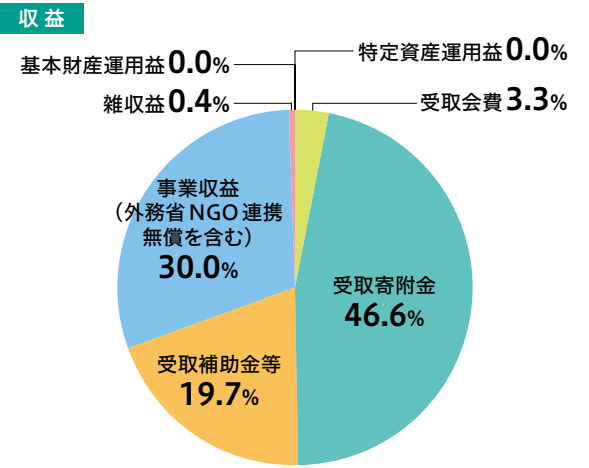
会計報告

貸借対照表

2017年12月31日現在

資産の部		(単位：円)
1.流動資産（現預金等）	124,341,947	
2.固定資産		
（1）基本財産	50,000,000	
（2）特定資産（特定預金）	262,364,314	
（3）その他固定資産（固定資産物品等）	10,841,502	
固定資産合計	323,205,816	
資産合計	447,547,763	
負債の部		
1.流動負債（預り金等）	22,490,588	
2.固定負債（退給引当金）	24,504,434	
負債合計	46,995,022	

正味財産の部	
1.指定正味財産	290,039,198
2.一般正味財産	110,513,543
正味財産合計	400,552,741
負債、正味財産合計	447,547,763



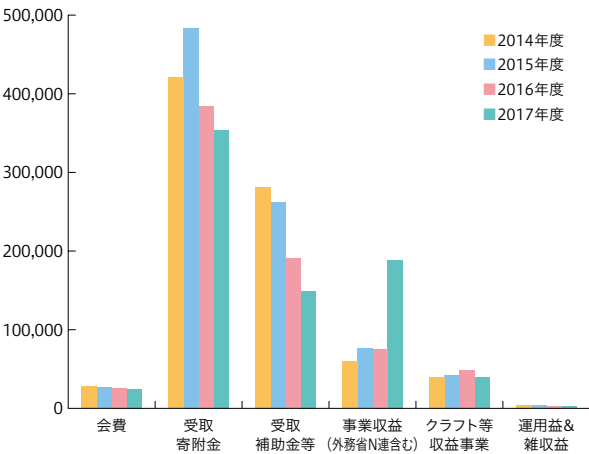
正味財産増減計算書

2017年1月1日から2017年12月31日まで

〈一般正味財産の部〉	
経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	50,000
特定資産運用益	76,897
受取会費	24,363,500
受取寄附金	346,663,215
受取補助金等	146,443,470
事業収益 (外務省 NGO 連携無償を含む)	223,038,711
雑収益	2,184,344
経常収益合計	742,820,137
(2) 経常費用	
①事業費	
公益目的事業1 (途上国における開発協力事業及び国内外における緊急救援事業)	
タイ事業費	12,660,008
カンボジア事業費	77,362,700
ラオス事業費	46,887,844
ミャンマー (ビルマ) 難民事業費	44,944,610
アフガニスタン事業費	188,703,063
ミャンマー事業費	50,020,816
ネパール事業費	67,260,231
東日本大震災支援事業費	27,189,230
緊急支援費	10,772,992
海外事業支援費	52,532,423
アジアの図書館サポーター事業費	5,745,676
公益目的事業1 合計	584,079,593
公益目的事業2 (開発協力事業に関する普及啓発事業)	
絵本を届ける運動事業費	38,779,756
広報事業費	26,645,105
公益目的事業2 合計	65,424,861
公益目的事業共通事業費	23,486,115
公益目的事業合計	672,990,569
収益事業等	
クラフトエイド事業費	39,708,486
業務委託費 (コンサル)	0
本で寄付するプロジェクト事業費	11,077,176
収益事業等合計	50,785,662
管理費合計	22,820,702
経常費用合計	746,596,933
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 3,776,796
評価損益等計	0
当期経常増減額	▲ 3,776,796
経常外増減の部	
経常外収益計	1,905,318
経常外費用	642,462
当期経常外増減額	1,262,856
税引前当期一般正味財産増減額	▲ 2,513,940
法人税、及び事業税	70,000
当期一般正味財産増減額	▲ 2,583,940
一般正味財産期首残高	113,097,483
一般正味財産期末残高	110,513,543
〈指定正味財産の部〉	
(単位：円)	
基本財産運用益、特定資産運用益	126,897
受取補助金	259,318,462
受取寄附金	165,004,675
一般正味財産への振替額	▲ 480,077,825
当期指定正味財産増減額	▲ 55,627,791
指定正味財産期首残高	345,666,989
指定正味財産期末残高	290,039,198
正味財産合計	400,552,741

年度別収益推移表 (一般正味財産)

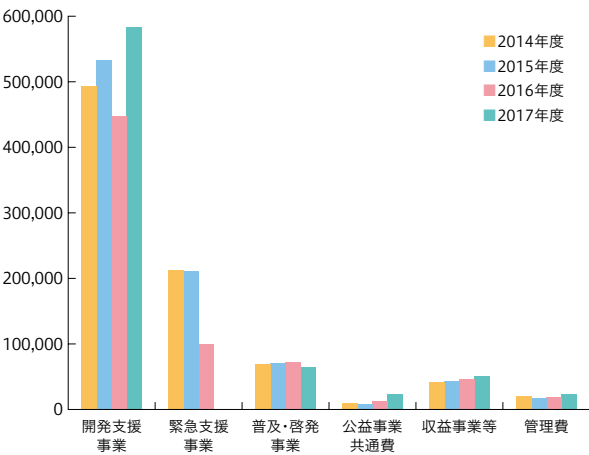
(単位：千円)				
収益	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
会費	27,255	25,903	24,941	24,364
受取寄附金	411,928	473,242	376,188	346,663
受取補助金等	275,825	256,498	186,659	146,443
事業収益 (外務省 N 連含む)	58,204	74,644	73,539	184,771
クラフト等収益事業	39,170	41,762	48,037	38,268
運用益 & 雑収益	4,628	3,587	2,769	2,311
合計	817,011	875,636	712,133	742,820



年度別費用推移表

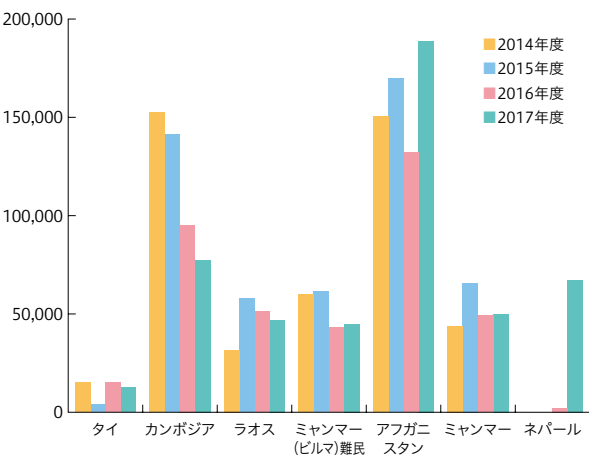
(単位：千円)				
費用	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
開発支援事業	492,829	532,849	447,943	584,080
緊急支援事業	213,368	210,954	100,154	0
広報・啓発事業	69,250	70,163	72,846	65,425
公益事業共通費	9,436	8,321	12,236	23,486
収益事業等	41,228	44,107	45,730	50,786
管理費	20,269	18,140	19,630	22,821
合計	846,380	884,534	698,539	746,598

※ 2017 年度から開発支援事業と緊急救援事業は公益事業 1 としてまとまりました。



年度別開発支援事業費推移表

(単位：千円)				
	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
タイ	15,060	4,024	15,054	12,660
カンボジア	152,425	141,345	95,193	77,363
ラオス	31,711	57,945	51,211	46,888
ミャンマー (ビルマ) 難民	59,846	61,392	43,015	44,945
アフガニスタン	150,431	169,637	132,067	188,703
ミャンマー	43,995	65,859	49,292	50,021
ネパール			2,230	67,260
合計	453,468	500,202	388,062	487,840



〔独立監査法人の監査報告書抜粋〕

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

田中義幸公認会計士事務所

平成 30 年 2 月 26 日 公認会計士 田中義幸

公益社団法人シャント国際ボランティア会は、当会監事による監査および田中義幸公認会計士事務所による財務諸表の外部監査を受けております。



公益社団法人

シャンティ国際ボランティア会

Shanti Volunteer Association

2017年度年次報告書

発行日 2018年5月1日

発行人 若林恭英

発行所 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館 2・3階

TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220

WEB www.sva.or.jp

Email info@sva.or.jp

郵便振替口座 00150-9-61724

「年次報告書」制作にご協力いただいた方々

執筆協力 藤原 千尋（フリーライター）

デザイン 佐藤 理樹（アルファデザイン）

写真 川畑 嘉文（フォトジャーナリスト）

シャンティへのご寄付は税控除の対象になります。

詳しくは当会またはお近くの税務署か税理士にご相談ください。